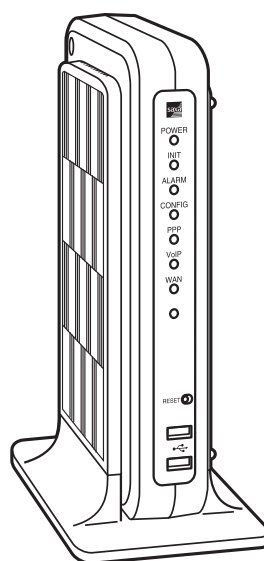


SG1000 機能詳細ガイド

このたびは、SG1000 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- この「機能詳細ガイド」では、本商品の設定機能について、詳細を説明しています。
- 設定操作を行う前に、この「機能詳細ガイド」をよくお読みのうえ、内容を理解してから設定を行ってください。



技術基準適合認証品

機能詳細ガイドの内容について

この「機能詳細ガイド」には、以下の項目を収録しています。

■Web設定画面で提供される各種の設定機能について、その詳細と設定方法を説明しています。

【設定する】

Web設定画面の表示方法と概要を示します。

【基本設定】

ログインアカウントや時刻などを設定します。

【ルータ設定】

ルータ機能の詳細を設定します。

【保守】

ファームウェア更新などの保守機能を実行します。

【レポート表示】

本商品の現在の状態や各種ログを表示します。

目次

機能詳細ガイドの内容について	2
目次	3
機能詳細ガイドの見かた	5

1 設定する

設定方法について	1-1
設定の流れ	1-1
設定画面にログインする	1-2

2 基本設定

「基本設定」について	2-1
装置名称設定	2-2
ユーザ用アカウント設定	2-3
時刻設定	2-4

3 ルータ設定

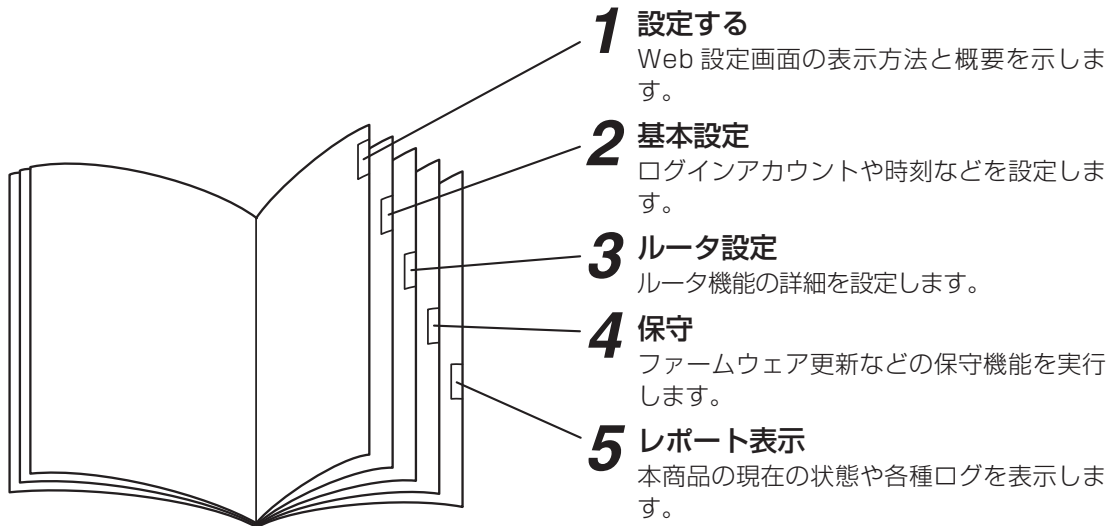
「ルータ設定」について	3-1
ルータ機能の設定を行うときの注意	3-2
ルータ機能設定	3-3
リンク設定	3-4
LANインタフェース設定	3-6
WANインタフェース設定	3-9
WAN	3-9
接続先 (PPPoE)	3-11
ルーティング設定	3-14
IPv4ルーティング	3-14
IPv6ルーティング	3-18
DNS設定	3-20
DNS	3-20
ドメインルーティング	3-22
アドレス変換設定	3-25
NAT	3-25
静的IPマスカレード	3-26
静的NAT	3-28
DMZ	3-30
フィルタリング設定	3-31
VPN設定	3-35
IPsec VPN	3-35
L2TP VPN	3-38
PPTP VPN	3-40
VPNパススルー設定	3-42
UPnP設定	3-44
ブリッジ設定	3-45
Wake on LAN設定	3-46

目次

4	保守	
	「保守」について	4-1
	ファームウェアを更新する	4-2
	ローカルでファームウェアを更新する	4-2
	リモートマネジメント	4-4
	再起動する	4-6
	RESETスイッチを使って再起動する	4-6
	Webブラウザから再起動する	4-6
	省エネモードを解除する	4-7
5	レポート表示	
	「レポート表示」について	5-1
	状態表示	5-2
	ログ表示	5-4
	通話ログ	5-5
	障害ログ	5-6
	システムログ	5-7
	セキュリティログ	5-8

機能詳細ガイドの見かた

機能詳細ガイドの構成



操作説明ページの構成

<サンプル>

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示しています。

お願いまたはお知らせ
<お願い>
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなったり、機能停止を招く内容を示しています。

<お知らせ>
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

- この取扱説明書では、本商品のイラストはSG1000an4を例として記載しています。

1 設定する
設定方法について

2 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

4 既定のトップ画面が表示されます。

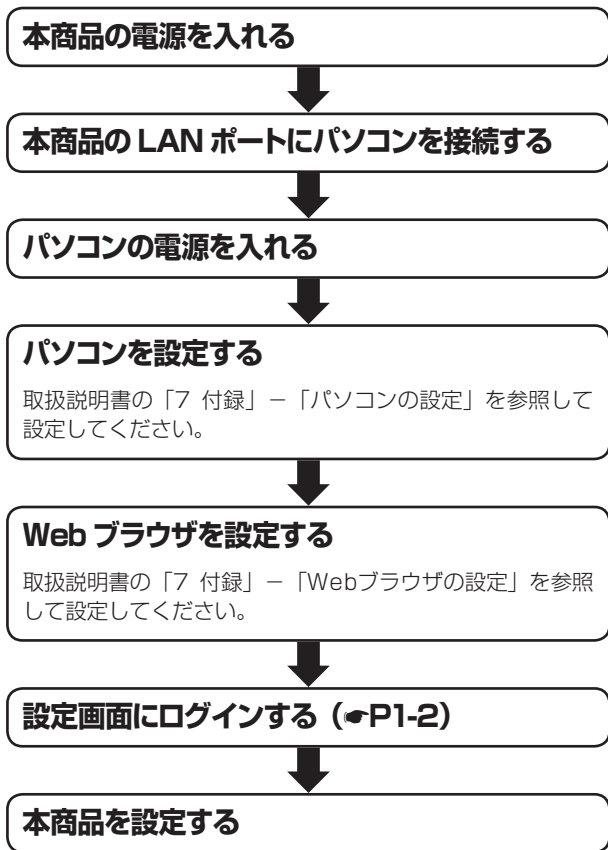
ワンポイント

お願い

お知らせ

操作手順説明
順番に操作を説明しています。

設定の流れ



お知らせ

本商品は以下のOSおよびWebブラウザに対応しています。

対応OS	対応ブラウザ
Windows® 7	Internet Explorer® 8.0または9.0
Windows Vista® (SP2)	Internet Explorer® 7.0、8.0または9.0
Windows® XP (SP3)	Internet Explorer® 7.0または8.0

- 設定画面や構成は2014年4月現在のものです。ファームウェアの更新により、設定画面や構成が変わることがあります。
- 設定画面にて「¥」を入力した際、Webブラウザのフォント設定によっては「\」と表示される場合があります。本書では「¥」に統一して記載しています。

1 設定する

設定方法について

本商品に接続したパソコンのWebブラウザで各種設定を行うことができます。
画面はWindows® 7でInternet Explorer® 8.0の例です。

設定画面にログインする

1 本商品に接続したパソコンでWebブラウザを起動する。

2 Webブラウザのアドレス欄に「http://192.168.189.1/」と入力し、「Enter」キーを押す。

本商品のLANインタフェースのIPアドレスの初期値は「192.168.189.1」です。

LANインタフェースのIPアドレスを変更している場合は、設定したIPアドレスを入力してください。(←P3-6)

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする。

ユーザー名初期値	user
パスワード初期値	user

ユーザ用アカウントのパスワードを変更している場合は、設定したパスワードを入力してください。(←P2-3)
入力したパスワードは、「●●●●」で表示されます。



4 設定のトップ画面が表示されます。

左側のメニューから項目をクリックして、各設定画面へ移動することができます。

メニュー項目の左側に▶が表示されている場合は、メニュー項目をクリックするとサブメニュー項目が表示されます。



トップページへ戻る

- ◎ 基本設定
- ◎ ルーティング設定
- ◎ 保守
- ◎ レポート表示


SG1000an4

Version	00000000
MAC Address(LAN)	000000000000
MAC Address(WAN)	000000000000
Serial number	000000000000

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- ・「設定保存(即時反映データを除く)」「ローカルバージョンアップ」実施後は、再起動を行うことにより操作が有効となります。
- ・ログを保存する場合は「ログ表示」から「保存」を行ってください。「設定保存」では保存されません。
- ・ブラウザソフトのJavaScriptの設定は、必ず「有効」にしてご使用ください。



ワンポイント

- 本商品のログアウト操作はありません。設定画面を終了する場合は、ウィンドウの  をクリックしてWebブラウザを閉じてください。



お願い

- 設定画面での操作は、画面内に表示されているボタン等で行ってください。Webブラウザのボタンやキーボードでのショートカットを使用すると、正常に動作しない場合があります。



お知らせ

- 「設定保存」をクリックする前に再起動したり、停電があった場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 画面はお使いのパソコンによって一部異なる場合があります。
- ログイン画面や設定画面に表示されている機種名は一例です。
- 手順3で他のパソコンがログイン中の場合は「既に他のユーザがログインしています。ログインしますか?」と表示され、「する」を選択して「決定」をクリックするとログインします。このとき、ログイン中の他のパソコンはログアウトします。ログイン中であった他のパソコンでWeb設定画面の「設定保存」をクリックした設定データは保存されます。

「基本設定」について

「基本設定」メニューでは、以下の項目を設定します。

- 装置名称設定 (☞P2-2)
- ユーザ用アカウント設定 (☞P2-3)
- 時刻設定 (☞P2-4)

1
設定する

2
基本設定

3
ルータ設定

4
保守

5
レポート表示

装置名称設定

本商品を識別するための名称を設定します。

基本設定 > 装置名称設定

装置名称設定

装置名称の設定を行います。

<注意事項>

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- 「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[装置設定]

装置名称 *全角/半角10文字以内で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

再起動

トップページへ戻る

- 基本設定
 - 装置名称設定
 - ユーザ用アカウント設定
 - 時刻設定
- ルータ設定
- 保守
- レポート表示

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [基本設定] → [装置名称設定] をクリックする。

3 [装置名称] に本商品の名称を入力する。

全角文字、半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」を除く）10文字以内で入力します。
初期値：GW装置

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

ユーザ用アカウント設定

設定画面にログインするためのパスワードを変更します。
ログインIDは変更できません。

基本設定>ユーザ用アカウント設定

ユーザ用アカウント設定

ユーザ用アカウントの設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[ユーザ用アカウント設定]

ログインID(表示のみ)	user	
新しいパスワード		・半角英数字16文字以内で入力してください。 ・パスワードなしにする場合は、空白にしてください。
新しいパスワードの確認		・半角英数字16文字以内で入力してください。 ・パスワードなしにする場合は、空白にしてください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [基本設定] → [ユーザ用アカウント設定] をクリックする。

3 [新しいパスワード] にパスワードを入力する。

半角英数字と記号〔-〕〔/〕〔_〕で、16文字以内で入力します。
入力したパスワードは、「●●●●」で表示されます。

4 [新しいパスワードの確認] にもう一度同じパスワードを入力する。

入力したパスワードは、「●●●●」で表示されます。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。


本商品が再起動され、設定が有効になります。

STOP お願い

- 設定したパスワードを忘れてしまうと、本商品へのログインができなくなります。パスワードは忘れないようご注意ください。万一パスワードを忘れてしまった場合には、ご契約サービスのサポート窓口にお問い合わせください。

時刻設定

本商品に現在時刻を設定します。また、時刻の自動取得の有効／無効の設定ができます。



バージョン

再起動

基本設定>時刻設定

時刻設定

時刻設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録／変更／削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- ・3日以上電源OFFの状態が続くと、時刻設定が初期化されます。

[時刻設定]

現在時刻	2011/01/02 01:28:13	
時刻入力	<input type="text"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・日時を「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」の形式で入力してください。 ※YYYY=西暦 MM=月 DD=日 hh=時 mm=分 ss=秒 ※入力は半角数字・記号で行ってください。

[自動取得設定]

取得機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効
サーバアドレス設定方法	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動
NTPサーバ	<input type="text"/>

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [基本設定] → [時刻設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 時刻設定

[時刻入力]

現在時刻を半角数字と記号で、「YYYY/MM/DD hh:mm:ss」(YYYY：西暦年、MM：月、DD：日、hh：時(24時間制)、mm：分、ss：秒)の形式で入力してください。

DDとhhの間に半角スペースを入れてください。

<例>2011年4月19日10時10分10秒の場合

2011/4/19 10:10:10

時刻入力が空欄の場合は、現在時刻の変更を行いません。

■ 自動取得設定

[取得機能] (初期値：有効)

自動取得機能を利用するかどうかを指定します。

[サーバアドレス設定方法] (初期値：自動)

サーバアドレスの設定方法を指定します。

・自動

NTPサーバのアドレスを自動的に取得します。

・手動

NTPサーバのアドレスを手動で設定します。

[NTPサーバ] にサーバアドレスを設定してください。

[NTPサーバ]

NTPサーバのホスト名またはIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



お知らせ

- 自動取得設定の取得機能を「有効」に設定した場合は、時刻取得時に現在時刻が更新されます。
- NTPサーバから時刻を取得できない場合は、IP電話サービスのサーバから時刻を取得します。



お願い

- 本商品の電源を切った状態が3日以上続いた場合は、設定した時刻が初期値（2011年1月1日00時00分00秒）に戻ります。現在時刻の時刻入力を行うか、自動取得設定の取得機能を「有効」に設定している場合は、時刻の自動取得を行うと時刻が設定されます。

「ルータ設定」メニューでは、以下の項目の設定ができます。

■ルータ機能設定 (☛P3-3)

ルータ機能のON/OFF設定ができます。

■リンク設定 (☛P3-4)

各ポートのリンク動作の設定ができます。

■LANインタフェース設定 (☛P3-6)

LAN接続の設定ができます。

■WANインタフェース設定 (☛P3-9)

WAN接続の設定とPPPoEセッションの設定ができます。

■ルーティング設定 (☛P3-14)

IPv4とIPv6について、ダイナミックルーティング機能やスタティックルーティング機能の設定ができます。

■DNS設定 (☛P3-20)

ProxyDNSやドメインルーティングの設定ができます。

■アドレス変換設定 (☛P3-25)

NAT、静的IPマスカレード、静的NAT、DMZの設定ができます。

■フィルタリング設定 (☛P3-31)

パケットフィルタリング機能の設定ができます。

■VPN設定 (☛P3-35)

IPsec VPN、L2TP VPN、PPTP VPNの設定ができます。

■VPNパススルー設定 (☛P3-42)

VPNパススルー機能の設定ができます。

■UPnP設定 (☛P3-44)

UPnP機能の設定ができます。

■ブリッジ設定 (☛P3-45)

PPPoEブリッジ機能、IPv6ブリッジ機能の設定ができます。

■Wake on LAN設定 (☛P3-46)

Wake on LAN機能の設定ができます。

お願い

- ご契約サービス側で設定されたIP電話機能に関わる「ルータ設定」の項目は、お客様において設定を変更しないでください。
- 設定内容を理解しないで設定を変更すると、IP電話やルータ機能が利用できなくなることがあります。

ルータ機能の設定を行うときの注意

本商品で利用するIP電話等のサービスでは、以下のプロトコルを利用しています。以下の利用プロトコルの通信が阻害されるような設定は行わないでください。また、本商品で利用するプロトコルは予告なく追加される場合がありますので、ご注意ください。

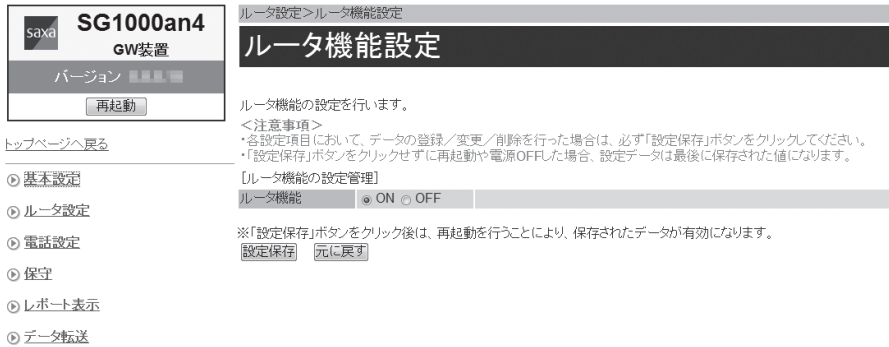
■利用プロトコル

- SIP
- RTP
- HTTP
- DHCPv4
- DHCPv6
- ICMPv6



お知らせ

- 本商品のルータ機能は、設定によりON/OFFすることができます。(初期値：ON)



1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

2 「ルータ設定」 → 「ルータ機能設定」 をクリックする。

3 ルータ機能のON/OFFを設定する。
 ルータ機能のON/OFFを設定します。(初期値：ON)

4 [設定保存] をクリックする。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
 本商品が再起動され、設定が有効になります。

お知らせ

- ルータ機能をOFFに設定した場合、リンク設定、LANインタフェース設定、WANインタフェース設定、UPnP設定のみ設定が可能になります。

リンク設定

本商品のLANポートに接続する機器がLANのオートネゴシエーションに対応していないなど、ポートのインタフェース条件を合わせる必要がある場合に設定します。

ルータ設定>リンク設定

リンク設定

LAN/WANポートのリンク設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[リンク設定]

LAN1ポート	自動
LAN2ポート	自動
LAN3ポート	自動
LAN4ポート	自動
WANポート	自動

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [リンク設定] をクリックする。

3 各ポートのリンク設定を指定する。

各ポートのリンク動作を、「自動、100Mbps全二重、100Mbps半二重、10Mbps全二重、10Mbps半二重」から選択します。(初期値：自動)

- ・自動
 伝送速度/伝送モードを自動で設定します。
- ・100Mbps全二重
 伝送速度を100Mbps、伝送モードを全二重に設定します。
- ・100Mbps半二重
 伝送速度を100Mbps、伝送モードを半二重に設定します。
- ・10Mbps全二重
 伝送速度を10Mbps、伝送モードを全二重に設定します。
- ・10Mbps半二重
 伝送速度を10Mbps、伝送モードを半二重に設定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

STOP お願い

- WANポートは、設定変更しないでください。通話ができなくなることがあります。

お知らせ

- リンク設定は、必ず接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

		接続先ポート				
		自動	100Mbps 全二重	100Mbps 半二重	10Mbps 全二重	10Mbps 半二重
自 ポ ー ト	自動	○	—	○	—	○
	100Mbps全二重	—	○	—	—	—
	100Mbps半二重	○	—	○	—	—
	10Mbps全二重	—	—	—	○	—
	10Mbps半二重	○	—	—	—	○

- 1000BASE-Tをご利用の場合、リンク設定は「自動」に設定してください。

LANインタフェース設定

LANについての基本設定です。通常は、変更する必要はありません。

ルータ設定 > LANインタフェース設定

LANインタフェース設定

LANインタフェースの設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
 ※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[基本設定]

インタフェース名	LAN	・半角英数字8文字以内で入力してください。
[IPv4アドレス設定]		
IPアドレス	192.168.189.1	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	24	・8～29の間で入力してください。
[IPv6アドレス払い出し設定]		
RA払い出し	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
PD払い出し	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
[DHCPv4サーバ設定]		
DHCPv4サーバ機能	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [LANインタフェース設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 基本設定

[インタフェース名] (初期値：LAN)

LANインタフェースの名称を入力します。半角英数字と記号（「-」 「/」 「_」）8文字以内で入力します。

■ IPv4アドレス設定

[IPアドレス] (初期値：192.168.189.1)

本商品のLAN側IPアドレスを入力します。

[マスク長] (初期値：24)

サブネットマスクのビット数を表す数値を入力します。
 設定範囲：8～29

■ IPv6アドレス払い出し設定

[RA払い出し] (初期値：有効)

RA払い出し機能を利用するかどうかを指定します。

[PD払い出し] (初期値：有効)

PD払い出し機能を利用するかどうかを指定します。

■ DHCPv4サーバ設定

[DHCPv4サーバ機能] (初期値：有効)

DHCPv4サーバ機能を利用するかどうかを指定します。

[割り付け先頭アドレス] (初期値：192.168.189.3)

LANに接続された端末に払い出すIPアドレスの先頭アドレスを設定します。
「IPv4アドレス設定」に設定したIPアドレスと同じネットワークのアドレスを指定してください。

[リース時間] (初期値：4時間)

払い出したIPアドレスのリース時間を設定します。
設定範囲：1～48（時間）

[プライマリDNSサーバアドレス] (初期値：192.168.189.1)

LANに接続された端末用のプライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

LANに接続された端末用のセカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[デフォルトゲートウェイ] (初期値：192.168.189.1)

LANに接続された端末用のデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

[プライマリWINSサーバアドレス]

LANに接続された端末用のプライマリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリWINSサーバアドレス]

LANに接続された端末用のセカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

■ DHCPv4固定割付テーブル

LANに接続された端末に固定のIPアドレスを割り付けたい場合に設定します。

[IPアドレス]

LANに接続された端末に割り付けるIPアドレスを設定します。

[MACアドレス]

IPアドレスを割り付ける端末のMACアドレスを設定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

お願い

- 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」に、WAN側IPアドレスと同一アドレスおよび同一セグメントのアドレスを設定しないでください。本商品が正常に動作しません。「IPv4アドレス設定」を行う際は、必ずWAN側IPアドレスおよびWAN側セグメントをご確認ください。
- 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」に設定したアドレスと、プラス1したアドレスは本商品で利用します。LANポートへ接続する装置ではプラス1したアドレスを利用しないでください。
(例) 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」を「192.168.189.1」に設定した場合、「192.168.189.2」を利用しないでください。

お知らせ

- 「IPv4アドレス設定」の「IPアドレス」は、ネットワークアドレス、ネットワークブロードキャストアドレス、ネットワークブロードキャストアドレスからマイナス1したアドレスは設定できません。
- LANインタフェースの設定は、以下のIPアドレスとマスク長の組み合わせでご利用ください。

クラス	IPアドレス	マスク長
クラスA	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255	8 ~ 29
クラスB	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255	16 ~ 29
クラスC	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255	24 ~ 29

- 「インタフェース名」の設定は、「設定保存」をクリックすると有効になります。
- 「DHCPv4固定割付テーブル」の「IPアドレス」は、「DHCPv4サーバ設定」の「割り付け先頭アドレス」から64番目までのIPアドレスと同じIPアドレスは設定できません。

接続先の設定です。以下の項目を設定します。

- WAN
- 接続先 (PPPoE)

WAN

WAN接続を行う場合に設定します。



バージョン ■■■■■

再起動

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ルータ機能設定
 - リンク設定
 - LANインタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - WAN
 - 接続先 (PPPoE)
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPN / ススルー設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定
 - Wake on LAN設定
- ③ 保守
- ④ レポート表示

ルータ設定 > WANインタフェース設定 > WAN

WAN

WAN接続の設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

WAN設定

[基本設定]

インタフェース名	WAN	半角8文字以内で入力してください。
[IPv4アドレス設定]		
アドレス設定方法	<input checked="" type="radio"/> 自動 <input type="radio"/> 手動 <input type="radio"/> 無効	
IPアドレス	192.168.2.1	IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	24	8~30の間で入力してください。
デフォルトゲートウェイアドレス		IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバアドレス		IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバアドレス		IPv4アドレスを入力してください。
DHCPv4経路情報ルーティング	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
[IPv6アドレス設定]		
アドレス設定方法	<input type="radio"/> PD <input type="radio"/> RA <input checked="" type="radio"/> 無効	
プライマリDNSサーバアドレス		IPv6アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバアドレス		IPv6アドレスを入力してください。
[セキュリティ設定]		
ステルスモード	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
ステートフル・インスペクション	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
攻撃検出	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1 ~ 3を行います。

2 [ルータ設定] → [WANインタフェース設定] → [WAN] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 基本設定

[インタフェース名] (初期値: WAN)

WANインタフェースの名称を入力します。半角英数字と記号 (「-」/「_」) 8文字以内で入力します。

■ IPv4アドレス設定

[アドレス設定方法] (初期値: 手動、IPアドレス: 192.168.2.1、マスク長: 24)

IPアドレスの設定方法を指定します。

- ・自動
IPアドレスを自動的に取得します。
- ・手動
固定IPアドレスを手動で設定します。
- ・無効
WAN側IPアドレスを設定しません。

[IPアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、固定IPアドレスを入力します。

(次ページへ続きます)

[マスク長]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、サブネットマスクのビット数を表す数値を入力します。

[デフォルトゲートウェイアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。

[プライマリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、プライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[DHCPv4経路情報ルーティング] (初期値：有効)

「アドレス設定方法」で「自動」を選択した場合に、DHCPの経路情報でルーティングするかどうかを指定します。

■ IPv6アドレス設定

[アドレス設定方法] (初期値：PD)

WAN側IPアドレスの設定方法を指定します。

・PD

PD払い出しにより、WAN側IPv6アドレスを自動的に取得します。

・RA

RA払い出しにより、WAN側IPv6アドレスを自動的に取得します。

・無効

WAN側IPv6アドレスを設定しません。

[プライマリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「RA」を選択した場合に、プライマリDNSサーバのIPv6アドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

「アドレス設定方法」で「RA」を選択した場合に、セカンダリDNSサーバのIPv6アドレスを設定します。

■ セキュリティ設定

[ステルスモード] (初期値：有効)

ステルスモード機能を利用するかどうかを指定します。

[ステートフル・インスペクション] (初期値：有効)

ステートフル・インスペクション機能を利用するかどうかを指定します。

[攻撃検出] (初期値：有効)

攻撃検出機能を利用するかどうかを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。




お知らせ

- [インタフェース名] の設定は、「設定保存」をクリックすると有効になります。
- 「マスク長」は、WAN側ネットワークのサブネットマスクに合わせて設定してください。
- 複数固定IPサービスの詳細については、契約プロバイダにお問い合わせください。

接続先 (PPPoE)

最大5個までのPPPoEセッションを設定できます。
プロバイダの接続設定など、主に使用するセッションはNo.1に設定してください。



トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ルータ機能設定
 - リンク設定
 - LANインタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - WAN
 - 接続先 (PPPoE)
 - ルーティング設定

ルータ設定 > WANインタフェース設定 > 接続先 (PPPoE)

接続先 (PPPoE)

PPPoEセッションの設定を行います。

[PPPoE設定]

No.	インタフェース名	セッション	ユーザ名	編集
1	PPP1	無効		編集
2	PPP2	無効		編集
3	PPP3	無効		編集
4	PPP4	無効		編集
5	PPP5	無効		編集

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [WANインタフェース設定] → [接続先 (PPPoE)] をクリックする。

3 設定を行うインタフェースの [編集] をクリックする。



トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ルータ機能設定
 - リンク設定
 - LANインタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - WAN
 - 接続先 (PPPoE)
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPNVLANスルー設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定
 - Wake on LAN設定
- ③ 保守
- ④ レポート表示

ルータ設定 > WANインタフェース設定 > 接続先 (PPPoE)

接続先 (PPPoE)

PPPoEセッションの設定を行います。

<注意事項>
各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。
※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 元に戻す

PPPoEセッション1

[基本設定]

インタフェース名	PPP1	・半角8文字以内で入力してください。
セッション	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
接続モード	<input checked="" type="radio"/> 常時接続 <input type="radio"/> 要求時接続	
[認証設定]		
ユーザ名		・半角255文字以内で入力してください。
パスワード		・半角255文字以内で入力してください。
[IPv4アドレス設定]		
アドレス設定方法	自動	
IPアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。
[セキュリティ設定]		
MTU値	1454	・576～1492の間で入力してください。
MRU値	1492	・576～1492の間で入力してください。
ステルスモード	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
ステートフル・インスペクション	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
攻撃検出	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 元に戻す

(次ページへ続きます)

4 各項目を設定する。

■ 基本設定

[インタフェース名] (初期値：PPP1~PPP5)

インタフェースの名称を入力します。半角英数字と記号（「-」「/」「_」）8文字以内で入力します。

[セッション] (初期値：無効)

設定を有効にするには、[有効] をクリックして選択します。

[接続モード] (初期値：常時接続)

PPPoEセッションの接続モードを指定します。

- ・ 常時接続
常に接続します。
- ・ 要求時接続
WAN側にインターネットアクセスしたときに、接続を開始します。

■ 認証設定

[ユーザ名]

プロバイダから指定されたPPPoE認証用のIDを半角英数字と記号（「:」「"」「'」「¥」「<」「>」「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

[パスワード]

プロバイダから指定されたPPPoE認証用のパスワードを半角英数字と記号（「:」「"」「'」「¥」「<」「>」「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

■ IPv4アドレス設定

[アドレス設定方法] (初期値：自動)

IPアドレスの取得方法を指定します。

- ・ 自動
プロバイダから自動的に割り当てられるIPアドレスを使用する場合に選択します。プロバイダから特に指定がない限りは、「自動」を選択します。
- ・ 手動
固定IPアドレスサービスを使用して、グローバルIPアドレスが指定されている場合に選択します。
- ・ unnumbered
プロバイダから割り当てられた複数のグローバルIPアドレスを、本商品および本商品に接続されたパソコン等にそれぞれ設定する場合に選択します。

[IPアドレス]

「アドレス設定方法」で「手動」を選択した場合に、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。

[プライマリDNSサーバアドレス]

プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

[セカンダリDNSサーバアドレス]

プロバイダから指定されたセカンダリDNSサーバのIPアドレスを入力します。

■ セキュリティ設定

[MTU値] (初期値：1454)

1回の転送で送信できるデータの最大値を設定します。
設定範囲：576～1492

[MRU値] (初期値：1492)

1回の転送で受信できるデータの最大値を設定します。
設定範囲：576～1492

[ステルスモード] (初期値：有効)

ステルスモード機能を利用するかどうかを指定します。

[ステートフル・インスペクション] (初期値：有効)

ステートフル・インスペクション機能を利用するかどうかを指定します。

[攻撃検出] (初期値：有効)

攻撃検出機能を利用するかどうかを指定します。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

お願い

- Arcstar IP Voice用のPPPoE設定をしている場合は、設定を変更しないでください。
Arcstar IP Voiceが利用できなくなることがあります。

お知らせ

- [アドレス設定方法] を「unnumbered」に設定する場合は、下記設定を行う必要があります。
 - ・ [IPv4アドレス設定] の [プライマリDNSサーバアドレス]
 - ・ [IPv4アドレス設定] の [セカンダリDNSサーバアドレス]
 - ・ [LANインタフェース設定] (●P3-6) の [IPv4アドレス設定] の [IPアドレス] と [マスク長]
 - ・ [LANインタフェース設定] (●P3-7) の [DHCPv4サーバ設定] の [DHCPv4サーバ機能] を「無効」に設定
 - ・ [アドレス変換設定] (●P3-25) の [NAT設定] の「有効」のチェックを外す。
 - ・ [フィルタリング設定] (●P3-32) の [条件設定] の [フィルタ種別] を「許可」に設定


ルーティング設定

IPv4とIPv6について、ダイナミックルーティング機能やスタティックルーティング機能の設定ができます。

LAN内に他のルータを接続してサブネットワークを構成している場合などに、あらかじめルーティングテーブルにルーティング情報を設定します。

IPv4ルーティング

IPv4ルーティングを設定します。



バージョン 再起動

再起動

トップページへ戻る

- ① 基本設定
- ② ルータ設定
 - ルータ機能設定
 - リンク設定
 - LANインタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - ルーティング設定
 - IPv4ルーティング
 - IPv6ルーティング
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - VPN（スプルー）設定
 - UPnP設定
 - ブリッジ設定
 - Wake on LAN設定
- ③ 保守
- ④ レポート表示

ルータ設定>ルーティング設定>IPv4ルーティング

IPv4ルーティング

IPv4ルーティングの設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合は、設定データは最後に保存された値になります。

[デフォルトルート設定]

ルーティング先	PPP1	
ルーティング先IPアドレス		・ルーティング先で「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv4アドレスを入力してください。

[ダイナミックルーティング設定]

ダイナミックルーティング機能	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効	
送信設定	RIPv1	
受信設定	RIPv1/RIPv2	
認証方式	なし	
認証テキスト		・認証方式で「テキスト認証」を選択した場合は、半角16文字以内で入力してください。
認証キー		・認証方式で「MD5認証」を選択した場合は、半角64文字以内で入力してください。

[スタティックルーティング設定]

スタティックルーティング機能 有効 無効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

スタティック宛先ルート

[宛先ルーティングテーブル]

No.	宛先IPアドレス / マスク長	ゲートウェイ	編集	削除
1			編集	削除
2			編集	削除
3			編集	削除
4			編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv4ルーティング] をクリックする。

STOP お願い

- 本商品のLAN側にIPv6対応ルータを接続する場合、IPv6ルータで利用するIPv6アドレスの設定を必ずご確認ください。
- IPv6ルータで利用するIPv6アドレスのインタフェースIDで使用する値が「::1」の場合、本商品とIPv6ルータのIPv6アドレスが重複する可能性があります。したがって、必ずIPv6ルータで利用するIPv6アドレスのインタフェースIDを静的に生成する場合は、「::2」「::100」などの値で生成するようIPv6ルータの設定変更を実施してください。(IPv6ルータがEUI-64フォーマットに基づきIPv6アドレスのインタフェースIDを生成する設定の場合は、設定変更の必要はありません。)
- WANポートで通信している状態でルーティング設定を変更する場合、動作条件により【設定保存】をクリックしても設定が即時有効にならないことがあります。このような場合は、[再起動]をクリックし、再起動してください。

3 各項目を設定する。

■ デフォルトルート設定

[ルーティング先] (初期値：PPP1)

ルーティング先を指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
「WANインタフェース」の「接続先 (PPPoE)」に設定したセッションをデフォルトルートに設定する場合に選択します。
- ・ WAN
「WANインタフェース」の「WAN」に設定した接続先をデフォルトルートに設定する場合に選択します。
- ・ IPアドレス指定
デフォルトルートをIPアドレスで指定する場合に選択します。次の [ルーティング先IPアドレス] にIPアドレスを設定してください。

[ルーティング先IPアドレス]

[ルーティング先] で「IPアドレス指定」を選択した場合に、デフォルトルートに設定するIPアドレスを入力します。

■ ダイナミックルーティング設定

[ダイナミックルーティング機能] (初期値：無効)

ダイナミックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [送信設定]、[受信設定] で設定した内容が有効となります。

[送信設定] (初期値：RIPv1)

ルーティング情報の送信方法を指定します。

- ・ 送信しない
- ・ RIPv1
- ・ RIPv2

[受信設定] (初期値：RIPv1/RIPv2)

ルーティング情報の受信方法を指定します。

- ・ 受信しない
- ・ RIPv1
- ・ RIPv2
- ・ RIPv1/RIPv2

[認証方式] (初期値：なし)

認証方式を指定します。

「テキスト認証」を選択した場合は、[認証テキスト] で設定した内容が有効となります。

「MD5認証」を選択した場合は、[認証キー] で設定した内容が有効になります。

- ・ なし
- ・ テキスト認証
- ・ MD5認証

[認証テキスト]

認証テキストを設定します。半角英数字と記号 (「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く) 16文字以内で入力します。

[認証キー]

認証キーを設定します。半角英数字と記号 (「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く) 64文字以内で入力します。



お知らせ

- 同一ネットワークにおいて、[認証方式]の設定は統一してください。
- [送信設定]、[受信設定] 共に「RIPv2」を選択したとき以外は、[認証方式]は「なし」に設定してください。

(次ページへ続きます)

■ スタティックルーティング設定

[スタティックルーティング機能] (初期値：有効)

スタティックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「宛先ルーティングテーブル」と「送信元ルーティングテーブル」で設定した内容が有効となります。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

■ 「宛先ルーティングテーブル」を編集するには

スタティックIPv4宛先ルートの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

宛先ルーティングテーブル1

[宛先ルーティング設定]

宛先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・1～32の間で入力してください。
ゲートウェイ	PPP1	
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>	・ゲートウェイで「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 設定のトップ画面から、[ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv4ルーティング] をクリックする。

2 「宛先ルーティングテーブル」で、編集する項目の [編集] をクリックする。

3 次の各項目を設定する。

■ 宛先ルーティング設定

[宛先IPアドレス]

宛先のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

宛先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：1～32

[ゲートウェイ] (初期値：PPP1)

ゲートウェイを指定します。

- ・ PPP1～PPPP5
- ・ WAN
- ・ IPアドレス指定

[ゲートウェイIPアドレス]

[ゲートウェイ] で「IPアドレス指定」を選択した場合には、ゲートウェイに指定するIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

● 「宛先ルーティングテーブル」を削除するには

- ① 手順2の「宛先ルーティングテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。
- 削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

■ 「送信元ルーティングテーブル」を編集するには

スタティックIPv4送信元ルートの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

送信元ルーティングテーブル1

[送信元ルーティング設定]

送信元IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・8～32の間で入力してください。
ゲートウェイ	PPP1	
ゲートウェイIPアドレス	<input type="text"/>	・ゲートウェイで「IPアドレス指定」を選択した場合は、IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 設定のトップ画面から、[ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv4ルーティング] をクリックする。

2 「送信元ルーティングテーブル」で、編集する項目の [編集] をクリックする。

3 次の各項目を設定する。

■ 送信元ルーティング設定

[送信元IPアドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信元IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：8～32

[ゲートウェイ] (初期値：PPP1)

ゲートウェイを指定します。

- ・ PPP1～PPP5
- ・ WAN
- ・ IPアドレス指定

[ゲートウェイIPアドレス]

[ゲートウェイ] で「IPアドレス指定」を選択した場合に、ゲートウェイに指定するIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

● 「送信元ルーティングテーブル」を削除するには

① 手順2の「送信元ルーティングテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。

② 確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。

削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

IPv6ルーティング

IPv6ルーティングを設定します。

ルータ設定 > ルーティング設定 > IPv6ルーティング

IPv6ルーティング

IPv6ルーティングの設定を行います。
 <注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合は、設定データは最後に保存された値になります。

[ダイナミックルーティング設定]

ダイナミックルーティング機能 有効 無効

送信設定 送信する 送信しない

受信設定 受信する 受信しない

[スタティックルーティング設定]

スタティックルーティング機能 有効 無効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

スタティックルーティング

[スタティックルーティングテーブル]

No.	宛先IPアドレス / マスク長	ゲートウェイ	編集	削除
1			編集	削除
2			編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv6ルーティング] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ ダイナミックルーティング設定

[ダイナミックルーティング機能] (初期値：無効)

ダイナミックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [送信設定]、[受信設定] で設定した内容が有効となります。

[送信設定] (初期値：送信する)

ルーティング情報を送信するかどうかを指定します。

[受信設定] (初期値：受信する)

ルーティング情報を受信するかどうかを指定します。

■ スタティックルーティング設定

[スタティックルーティング機能] (初期値：有効)

スタティックルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「スタティックルーティング」にしたがってルーティングを行います。

■ スタティックルーティング

[スタティックルーティング機能] で「有効」を選択した場合に、「スタティックルーティングテーブル」の設定内容が有効となります。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

■ 「スタティックルーティングテーブル」を編集するには

スタティックIPv6ルーティングの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

スタティックルーティングテーブル1

[ルーティング設定]

宛先IPv6アドレス	<input type="text"/>	・IPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・1~128の間で入力してください。
ゲートウェイ	WAN	
ゲートウェイIPv6アドレス	<input type="text"/>	・ゲートウェイで「IPv6アドレス指定」を選択した場合は、IPv6アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

1 設定のトップ画面から、[ルータ設定] → [ルーティング設定] → [IPv6ルーティング] をクリックする。

2 「スタティックルーティングテーブル」で、編集する項目の [編集] をクリックする。

3 次の各項目を設定する。

■ ルーティング設定

[宛先IPv6アドレス]

宛先のIPv6アドレスを入力します。

[マスク長]

宛先IPv6アドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。

設定範囲：1 ~ 128

[ゲートウェイ] (初期値：WAN)

ゲートウェイを指定します。

- ・ LAN
- ・ WAN
- ・ IPアドレス指定

[ゲートウェイIPv6アドレス]

[ゲートウェイ] で「IPアドレス指定」を選択した場合に、ゲートウェイに指定するIPv6アドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。



ワンポイント

● 「スタティックルーティングテーブル」を削除するには

①手順2の「スタティックルーティングテーブル」で、削除する項目の [削除] をクリックする。

②確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。

削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

ProxyDNSやドメインルーティングを設定します。

DNS

ProxyDNSを設定します。

ルータ設定>DNS設定>DNS

DNS

ProxyDNSの設定を行います。
 <注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[ProxyDNS設定]

ProxyDNS機能	<input checked="" type="radio"/> 有効
[デフォルト問い合わせ先]	
DNSv4問い合わせ	PPP1
DNSv6問い合わせ	WAN

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [DNS設定] → [DNS] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ ProxyDNS設定

[ProxyDNS機能] (初期値：有効)

■ デフォルト問い合わせ先

[DNSv4問い合わせ] (初期値：PPP1)

IPv4のデフォルト問い合わせ先を指定します。

- ・ PPP1 ～ PPP5

「WANインタフェース」の「接続先 (PPPoE)」に設定したセッションをデフォルトの問い合わせ先に設定する場合に選択します。

- ・ WAN

「WANインタフェース」の「WAN」に設定した接続先をデフォルトの問い合わせ先に設定する場合に選択します。

[DNSv6問い合わせ] (初期値：WAN)

IPv6のデフォルト問い合わせ先を指定します。[WANのみ選択可]

- ・ WAN

「WANインタフェース」の「WAN」に設定した接続先をデフォルトの問い合わせ先に設定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

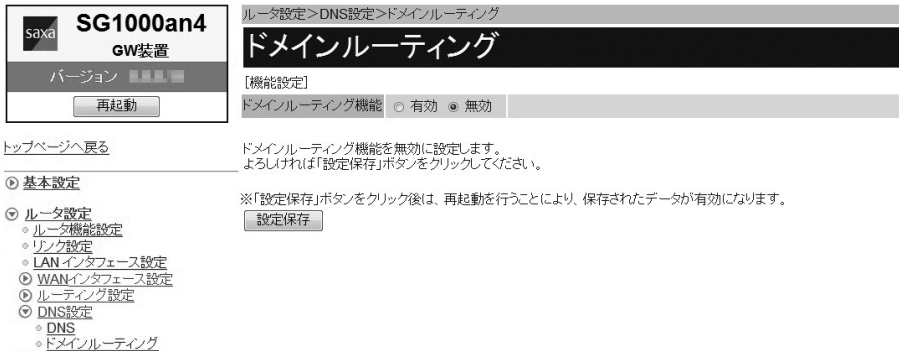
5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

ドメインルーティング

ドメインルーティングを設定します。



1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [DNS設定] → [ドメインルーティング] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[ドメインルーティング機能] (初期値：無効)

ドメインルーティング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の「ドメインルーティング条件」で設定した内容が有効となります。

■ ドメインルーティング条件

[ドメインルーティング機能] で「有効」を選択した場合に、「ドメインルーティング条件」の設定内容が有効となります。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※設定を反映するには再起動を行ってください。

[ドメインルーティングに戻る](#)

5 [ドメインルーティングに戻る] をクリックする。

[ドメインルーティング条件]

No.	ドメイン名	ルーティング先	編集	削除
1			編集	削除
2			編集	削除
3			編集	削除
4			編集	削除

6 「ドメインルーティング条件」の編集する項目の【編集】をクリックする。

ルータ設定>DNS設定>ドメインルーティング

ドメインルーティング

[機能設定]

ドメインルーティング機能 有効 無効

トップページへ戻る

ドメインルーティングの設定を行います。

<注意事項>

- 各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- 「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

ドメインルーティング条件1

[ドメイン設定]

ドメイン名	<input type="text" value="example.com"/>	*半角253文字以内で入力してください。
ルーティング先	PPP1	

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

7 次の各項目を設定する。

■ ドメイン設定

[ドメイン名]

ドメインルーティング条件を適用するドメイン名を入力します。半角英小文字、半角数字と記号（「-」「.」「_」）253文字以内で入力します。

[ルーティング先] (初期値：PPP1)

ルーティング先を指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 [再起動] をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

- 「ドメインルーティング条件」を削除するには
 - ① 手順6の「ドメインルーティング条件」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。
削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。

NAT、静的IPマスカレード、静的NAT、DMZの設定ができます。

NAT

インタフェースごとに、NAT機能を有効にするかどうかを設定します。

ルータ設定>アドレス変換設定>NAT

NAT

NATの設定を行います。
<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[NAT設定]

インタフェース名	NAT機能
PPP1	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP2	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP3	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP4	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
PPP5	<input checked="" type="checkbox"/> 有効
WAN	<input checked="" type="checkbox"/> 有効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [NAT] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ NAT設定 (初期値：すべて有効)

インタフェースのNAT機能を有効にする場合は、[有効] のチェックボックスをクリックしてチェックマークを付けます。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

静的IPマスカレード

静的IPマスカレードを設定します。

WAN側からの特定の宛先ポートの通信を、LAN側の特定のローカルIPアドレスの端末に送信できます。

ルータ設定>アドレス変換設定>静的IPマスカレード

静的IPマスカレード

[機能設定]

静的IPマスカレード機能 有効 無効

静的IPマスカレードの設定を行います。

<注意事項>

- ・「編集」をクリックすると各テーブルの編集画面へと移動します。
- ・「削除」をクリックすると指定したテーブルのデータを削除します。
- ※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[静的IPマスカレードテーブル] ■1-25 ■26-50

No.	変換対象		変換後宛先	編集	削除
	プロトコル	ポート番号	ローカルIPアドレス		
1				編集	削除
2				編集	削除
3				編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [静的IPマスカレード] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[静的IPマスカレード機能] (初期値：有効)

静的IPマスカレード機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[静的IPマスカレードテーブル]で設定した内容が有効となります。

■ 静的IPマスカレードテーブル

静的IPマスカレードテーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※設定を反映するには再起動を行ってください。

[静的IPマスカレードに戻る](#)

5 [静的IPマスカレードに戻る] をクリックする。

[静的IPマスカレードテーブル] ■1-25 ■26-50

No.	変換対象		変換後宛先	編集	削除
	プロトコル	ポート番号	ローカルIPアドレス		
1				編集	削除
2				編集	削除
3				編集	削除
4				編集	削除

6 「静的IPマスカレードテーブル」の編集する項目の【編集】をクリックする。

〔No.26〕以降の項目を編集する場合は、「■26-50」をクリックしてページを切り換えます。

静的IPマスカレードの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

静的IPマスカレードテーブルNo.1

〔静的IPマスカレード設定〕

プロトコル	<input type="radio"/> TCP <input type="radio"/> UDP <input checked="" type="radio"/> TCP/UDP	
ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	・それぞれ1~65535の間で入力してください。
ローカルIPアドレス	<input type="text"/>	・IPV4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

7 各項目を設定する。

■ 静的IPマスカレード設定

〔プロトコル〕（初期値：TCP/UDP）

WAN側に公開したいアプリケーションが使用するプロトコルを指定します。

〔TCP〕、〔UDP〕、〔TCP/UDP〕のいずれかをクリックして選択します。

〔ポート番号〕（開始 ~ 終了）

WAN側に公開したいアプリケーションが使用するTCP/UDPのポート番号を入力します。

設定範囲：1 ~ 65535

〔ローカルIPアドレス〕

LAN側端末のIPアドレスを指定します。

8 「設定保存」をクリックする。

取り消す場合は、〔元に戻す〕をクリックしてください。

9 「再起動」をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら【OK】をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら【OK】をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

- 「静的IPマスカレードテーブル」を削除するには
 - ① 手順6の「静的IPマスカレードテーブル」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。
削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。

静的NAT

静的NATを設定します。

WAN側の特定のIPアドレスを宛先とした通信を、LAN側の特定のローカルIPアドレスの端末に送信できます。

ルータ設定>アドレス変換設定>静的NAT

静的NAT

[機能設定]

静的NAT機能 有効 無効

静的NATの設定を行います。

<注意事項>

- ・「編集」をクリックすると各テーブルの編集画面へと移動します。
- ・「削除」をクリックすると指定したテーブルのデータを削除します。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[設定保存](#)

[静的NATテーブル] ■1-25 ■26-50 ■51-64

No.	インタフェース	グローバルIPアドレス	ローカルIPアドレス	編集	削除
1				編集	削除
2				編集	削除
3				編集	削除
4				編集	削除

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [静的NAT] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[静的NAT機能] (初期値：有効)

静的NAT機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[静的NATテーブル]で設定した内容が有効となります。

■ 静的NATテーブル

静的NATテーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※設定を反映するには再起動を行ってください。

[静的NATに戻る](#)

5 [静的NATに戻る] をクリックする。

[静的NATテーブル] ■1-25 ■26-50 ■51-64

No.	インタフェース	グローバルIPアドレス	ローカルIPアドレス	編集	削除
1				編集	削除
2				編集	削除
3				編集	削除
4				編集	削除

6 「静的NATテーブル」の編集する項目の「編集」をクリックする。

「No.26」以降の項目を編集する場合は、「■26-50」または「■51-64」をクリックしてページを切り換えます。

静的NATの設定を行います。

<注意事項>

- ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
- ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

静的NATテーブルNo.1

【静的NAT設定】

インタフェース	PPP1	
グローバルIPアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。
ローカルIPアドレス		・IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

7 各項目を設定する。

■ 静的NAT設定

【インタフェース】（初期値：PPP1）

適用するインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

【グローバルIPアドレス】

WAN側（送信先）のグローバルIPアドレスを指定します。

【ローカルIPアドレス】

LAN側端末のIPアドレスを指定します。

8 「設定保存」をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 「再起動」をクリックする。

10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。



ワンポイント

● 「静的NATテーブル」を削除するには

- ①手順6の「静的NATテーブル」で、削除する項目の「削除」をクリックする。
- ②確認画面が表示されたら、[OK] をクリックする。
削除を中止するときは [キャンセル] をクリックします。

DMZ

DMZ (DeMilitarized Zone) を設定します。
LAN内にDMZホストを設置できます。

ルータ設定 > アドレス変換設定 > DMZ

DMZ

DMZ機能の設定を行います。
<注意事項>
・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[DMZ設定]

DMZホスト機能 有効 無効

転送先IPアドレス ・IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
「設定画面にログインする」(P1-2) の手順 1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [アドレス変換設定] → [DMZ] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ DMZ設定

[DMZホスト機能] (初期値：無効)

DMZ機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [転送先IPアドレス] で設定した内容が有効となります。

[転送先IPアドレス]

DMZホストに指定するLAN側端末のIPアドレスを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。
取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

パケットフィルタリング機能を設定します。
 インタフェース、IPアドレス、プロトコル、ポート番号などの条件を指定して中継するIPパケットを通過／破棄するように設定することで、本商品を通過するパケットを制限することができます。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [フィルタリング設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[フィルタリング機能] (初期値：有効)

フィルタリング機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [フィルタリングテーブル] で設定した内容が有効となります。

■ フィルタリングテーブル

フィルタリングテーブルにフィルタ条件を登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を反映しました。

[フィルタリング設定に戻る](#)

5 [フィルタリング設定に戻る] をクリックする。

[フィルタリングテーブル] ■1-25 ■26-50 ■51-75 ■76-100 ■101-128

No.	ルール プロトコル	受信		送信先IPアドレス		送信先ポート		TCPフラグ					編集	削除	
		送信	送信元IPアドレス	送信元ポート	送信元ポート	SYN	ACK	FIN	RST	URG	PSH				
1														編集	削除
2														編集	削除

6 [フィルタリングテーブル] の編集する項目の [編集] をクリックする。

「No. 26」以降の項目を編集する場合は、「■26-50」または「■51-75」、「■76-100」、「■101-128」をクリックしてページを切り換えます。

(次ページへ続きます)

フィルタリングの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

フィルタ条件1

※IPアドレスはv4またはv6どちらかに統一してください。

【条件設定】

フィルタ種別	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 拒否	
受信インタフェース	指定なし	
送信インタフェース	指定なし	
ネットワーク層プロトコル	指定なし	
トランスポート層プロトコル	指定なし	
【IPアドレス】		
送信先IPアドレス指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・送信先IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信先IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。
送信元IPアドレス指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
マスク長	<input type="text"/>	・送信元IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信元IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。
【ポート】		
送信先ポート指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	・それぞれ1～65535の間で入力してください。
送信元ポート指定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
ポート番号	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	・それぞれ1～65535の間で入力してください。
【TCPフラグ】		
TCPフラグ対象	<input type="checkbox"/> SYN <input type="checkbox"/> ACK <input type="checkbox"/> FIN <input type="checkbox"/> RST <input type="checkbox"/> URG <input type="checkbox"/> PSH	
TCPフラグ設定	<input type="checkbox"/> SYN <input type="checkbox"/> ACK <input type="checkbox"/> FIN <input type="checkbox"/> RST <input type="checkbox"/> URG <input type="checkbox"/> PSH	・TCPフラグ対象にチェックが入っているものだけ選択可能です。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、保存されたデータが即時有効になります。

7 各項目を設定する。

■ 条件設定

【フィルタ種別】（初期値：拒否）

パケットの通過を許可するかどうかを指定します。

【受信インタフェース】（初期値：指定なし）

受信インタフェースを指定します。

- ・ 指定なし
- ・ LAN
- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

【送信インタフェース】（初期値：指定なし）

送信インタフェースを指定します。

- ・ 指定なし
- ・ LAN
- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

【ネットワーク層プロトコル】（初期値：指定なし）

ネットワーク層プロトコルを指定します。

「指定なし」、「IPv4」、「IPv6」のいずれかをクリックして選択します。

「IPv4」、「IPv6」を選択した場合には、次の【IPアドレス】で設定した内容が有効となります。

【トランスポート層プロトコル】（初期値：指定なし）

トランスポート層プロトコルを指定します。

「指定なし」、「TCP」、「UDP」、「ICMP」のいずれかをクリックして選択します。

「TCP」、「UDP」を選択した場合には、次の【ポート】で設定した内容が有効となります。

■ IPアドレス

[送信先IPアドレス指定] (初期値：なし)

送信先のIPアドレスを指定するかどうかを指定します。
「あり」を選択した場合には、次の[IPアドレス]、[マスク長]で設定した内容が有効となります。

[IPアドレス]

送信先のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。
設定範囲
IPアドレスがIPv4の場合：1～32 IPアドレスがIPv6の場合：1～128

[送信元IPアドレス指定] (初期値：なし)

送信元のIPアドレスを指定するかどうかを指定します。
「あり」を選択した場合には、次の[IPアドレス]、[マスク長]で設定した内容が有効となります。

[IPアドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[マスク長]

送信元IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。
設定範囲
IPアドレスがIPv4の場合：1～32 IPアドレスがIPv6の場合：1～128

■ ポート

[送信先ポート指定] (初期値：なし)

送信先のポート番号を指定するかどうかを指定します。
「あり」を選択した場合には、次の [ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[ポート番号] (開始～終了)

送信先ポートの開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。
設定範囲：1～65535

[送信元ポート指定] (初期値：なし)

送信元のポート番号を指定するかどうかを指定します。
「あり」を選択した場合には、次の [ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[ポート番号] (開始～終了)

送信元ポートの開始ポート番号と終了ポート番号を入力します。
設定範囲：1～65535

■ TCPフラグ

[トランスポート層プロトコル] で「TCP」を選択した場合に設定できます。

[TCPフラグ対象] (初期値：選択なし)

フィルタリング対象のTCPコネクションフラグを指定します。
「SYN」、「ACK」、「FIN」、「RST」、「URG」、「PSH」をクリックして選択します。
複数のフラグを選択することができます。

[TCPフラグ設定] (初期値：選択なし)

設定するTCPコネクションフラグを指定します。
「SYN」、「ACK」、「FIN」、「RST」、「URG」、「PSH」をクリックして選択します。
[TCPフラグ対象] で選択していないフラグは、選択できません。

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

(次ページへ続きます)



ワンポイント

- 「フィルタリングテーブル」を削除するには
 - ① 手順6の「フィルタリングテーブル」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ② 確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。
削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。



お知らせ

- 送信先のIPアドレスと送信元のIPアドレスは、IPv4またはIPv6で統一してください。

VPN (Virtual Private Network) 機能を設定します。IPsec VPN、L2TP VPN、PPTP VPNが利用できます。

IPsec VPN

IPsec VPNを設定します。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPN設定] → [IPsec VPN] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ 機能設定

[IPsec VPN機能] (初期値：無効)

IPsec VPN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [IPsec VPNテーブル] で設定した内容が有効となります。

■ IPsec VPNテーブル

IPsec VPNテーブルにデータを登録します。

4 [設定保存] をクリックする。

設定を保存しました。

※設定を反映するには再起動を行ってください。

[IPsec VPNに戻る](#)

5 [IPsec VPNに戻る] をクリックする。

[IPsec VPNテーブル]

No.	接続先IPアドレス	ルーティング先	編集	削除
	接続元インタフェース/接続元IPアドレス			
1			編集	削除
2			編集	削除
3			編集	削除

(次ページへ続きます)

6 [IPsec VPNテーブル] の編集する項目の [編集] をクリックする。

IPsec VPNの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

IPsec VPNテーブル1

※IPアドレスはv4またはv6どちらかに統一してください。

【基本設定】

接続先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
接続元インタフェース	WAN	
接続元IPアドレス	<input type="text"/>	・接続元インタフェースで「IPアドレス指定」を選択した場合、IPアドレスを入力してください。
事前共有鍵	<input type="text"/>	・半角256文字以内で入力してください。

【Phase1設定】

暗号化アルゴリズム	3DES-CBC	
ハッシュアルゴリズム	MD5	
DHグループ	2	
生存時間	28800 秒	・300～86400秒の間で入力してください。

【Phase2設定】

暗号化アルゴリズム	3DES-CBC	
ハッシュアルゴリズム	MD5	
PFS	なし	
生存時間	28800 秒	・300～86400秒の間で入力してください。

【ルーティング設定】

送信先IPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4またはIPv6アドレスを入力してください。
送信先マスク長	<input type="text"/>	・送信先IPアドレスがIPv4の場合は1～32の間で入力してください。 ・送信先IPアドレスがIPv6の場合は1～128の間で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

7 各項目を設定する。

■ 基本設定

【接続先IPアドレス】

接続先のIPアドレスを入力します。

【接続元インタフェース】 (初期値：WAN)

接続元のインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ～ PPP5
- ・ WAN
- ・ IPアドレス指定

【接続元IPアドレス】

【接続元インタフェース】で「IPアドレス指定」を選択した場合に、接続元のIPアドレスを入力します。

【事前共有鍵】

事前共有鍵を設定する場合は、半角英数字と記号（「:」 「!」 「@」 「#」 「\$」 「%」 「<」 「>」 「スペース」を除く）256文字以内で入力します。

■ Phase1 設定

【暗号化アルゴリズム】 (初期値：3DES-CBC)

Phase1の暗号化アルゴリズムを指定します。

「3DES-CBC」、「AES-CBC」のいずれかをクリックして選択します。

【ハッシュアルゴリズム】 (初期値：MD5)

Phase1のハッシュアルゴリズムを指定します。

「MD5」、「SHA-1」のいずれかをクリックして選択します。

[DHグループ] (初期値: 2)

Phase1のDHグループを指定します。
「1」、「2」、「5」のいずれかをクリックして選択します。

[生存時間] (初期値: 28800秒)

Phase1の生存時間を入力します。
設定範囲: 300 ~ 86400 (秒)

■ Phase2設定**[暗号化アルゴリズム] (初期値: 3DES-CBC)**

Phase2の暗号化アルゴリズムを指定します。
「3DES-CBC」、「AES-CBC」のいずれかをクリックして選択します。

[ハッシュアルゴリズム] (初期値: MD5)

Phase2のハッシュアルゴリズムを指定します。
「MD5」、「SHA-1」のいずれかをクリックして選択します。

[PFS] (初期値: なし)

Phase2のPFSを指定します。
「なし」、「1」、「2」、「5」のいずれかをクリックして選択します。

[生存時間] (初期値: 28800秒)

Phase2の生存時間を入力します。
設定範囲: 300 ~ 86400 (秒)

■ ルーティング設定**[送信先IPアドレス]**

送信先のネットワークアドレスを入力します。

[送信先マスク長]

送信先IPアドレスに対するマスクのビット数を表す数値を入力します。
設定範囲
IPアドレスがIPv4の場合: 1 ~ 32 IPアドレスがIPv6の場合: 1 ~ 128

8 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

9 [再起動] をクリックする。**10 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。****11 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。**

本商品が再起動され、設定が有効になります。

**ワンポイント**


- 「IPsec VPNテーブル」を削除するには
 - ①手順6の「IPsec VPNテーブル」で、削除する項目の【削除】をクリックする。
 - ②確認画面が表示されたら、【OK】をクリックする。削除を中止するときは【キャンセル】をクリックします。

**お知らせ**

- 接続先IPアドレスと接続元IPアドレスと送信先IPアドレスは、IPv4またはIPv6で統一してください。

L2TP VPN

L2TP VPNを設定します。



バージョン

再起動

ルータ設定 > VPN設定 > L2TP VPN

L2TP VPN

[機能設定]

L2TP VPN機能 有効 無効

L2TP VPN機能を無効に設定します。
よろしければ「設定保存」ボタンをクリックしてください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存

トップページへ戻る

- ① 基本設定
 - ① ルータ設定
 - ルータ機能設定
 - リンク設定
 - LANインタフェース設定
 - WANインタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - IPsec VPN
 - L2TP VPN
 - PPTP VPN

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPN設定] → [L2TP VPN] をクリックする。

3 項目を設定する。

■ 機能設定

[L2TP VPN機能] (初期値：無効)

L2TP VPN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [基本設定]、[ユーザ登録] で設定した内容が有効となります。

4 各項目を設定する。

L2TP VPNの設定を行います。

<注意事項>

・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

設定保存 元に戻す

[基本設定]

インタフェース	WAN	
ローカルIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
リモートIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
MTU値	1408	・576～1500の間で入力してください。
事前共有鍵	<input type="text"/>	・半角256文字以内で入力してください。

ユーザ登録

[登録テーブル]

No	ユーザ名	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>

■ 基本設定

[インタフェース] (初期値：WAN)

WANインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

[ローカルIPアドレス]

ローカル端末のIPアドレスを入力します。

[リモートIPアドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[プライマリDNSサーバ]

プライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバ]

セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[プライマリWINSサーバ]

プライマリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリWINSサーバ]

セカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[MTU値] (初期値：1408)

MTU値を入力します。

設定範囲：576 ~ 1500

[事前共有鍵]

事前共有鍵を設定する場合は、半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く）256文字以内で入力します。

■ ユーザ登録

「登録テーブル」にユーザアカウントを登録します。

[ユーザ名]

ユーザアカウントのIDを入力します。半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く）255文字以内で入力します。同じIDを重複して登録すると正常に動作しない場合があります。IDを複数登録する場合は、必ず異なるIDを登録してください。

[パスワード]

ユーザアカウントのパスワードを入力します。半角英数字と記号（「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く）255文字以内で入力します。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。

PPTP VPN

PPTP VPNを設定します。

ルータ設定 > VPN設定 > PPTP VPN

PPTP VPN

[機能設定]

PPTP VPN機能 有効 無効

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

基本設定

- ルータ設定
 - ルータ機能設定
 - リンク設定
 - LAN インタフェース設定
 - WAN インタフェース設定
 - ルーティング設定
 - DNS設定
 - アドレス変換設定
 - フィルタリング設定
 - VPN設定
 - IPsec VPN
 - L2TP VPN
 - PPTP VPN

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPN設定] → [PPTP VPN] をクリックする。

3 項目を設定する。

■ 機能設定

[PPTP VPN機能] (初期値：無効)

PPTP VPN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の [基本設定]、[ユーザ登録] で設定した内容が有効となります。

4 各項目を設定する。

PPTP VPNの設定を行います。

<注意事項>

※各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。

※「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

[基本設定]

インタフェース	WAN	
ローカルIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
リモートIPアドレス	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
プライマリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。
セカンダリWINSサーバ	<input type="text"/>	・IPv4アドレスを入力してください。

ユーザ登録

[登録テーブル]

No.	ユーザ名	パスワード
1	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2	<input type="text"/>	<input type="text"/>

■ 基本設定

[インタフェース] (初期値: WAN)

インタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ~ PPP5
- ・ WAN

[ローカルIPアドレス]

ローカル端末のIPアドレスを入力します。

[リモートIPアドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[プライマリDNSサーバ]

プライマリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリDNSサーバ]

セカンダリDNSサーバのIPアドレスを設定します。

[プライマリWINSサーバ]

プライマリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

[セカンダリWINSサーバ]

セカンダリWINSサーバのIPアドレスを設定します。

■ ユーザ登録

「登録テーブル」にユーザアカウントを登録します。

[ユーザ名]

ユーザアカウントのIDを入力します。半角英数字と記号 (「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く) 255文字以内で入力します。同じIDを重複して登録すると正常に動作しない場合があります。IDを複数登録する場合は、必ず異なるIDを登録してください。

[パスワード]

ユーザアカウントのパスワードを入力します。半角英数字と記号 (「:」 「"」 「'」 「¥」 「<」 「>」 「スペース」を除く) 255文字以内で入力します。

5 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

6 [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか?」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか?」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。

VPNパススルー機能を設定します。

ルータ設定>VPNパススルー設定

VPNパススルー設定

VPNパススルーの設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[IPsecパススルー設定]

パススルー機能 有効 無効

端末IPアドレス *IPv4アドレスを入力してください。

[L2TPパススルー設定]

パススルー機能 有効 無効

端末IPアドレス *IPv4アドレスを入力してください。

[PPTPパススルー設定]

パススルー機能 有効 無効

端末IPアドレス *IPv4アドレスを入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [VPNパススルー設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ IPsecパススルー設定

[パススルー機能] (初期値：無効)

IPsec VPNのパススルー機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[端末IPアドレス]で設定した内容が有効となります。

[端末IPアドレス]

IPsecサーバのIPアドレスを入力します。

■ L2TPパススルー設定

[パススルー機能] (初期値：無効)

L2TP VPNのパススルー機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[端末IPアドレス]で設定した内容が有効となります。

[端末IPアドレス]

L2TPサーバのIPアドレスを入力します。

■ PPTPパススルー設定

[パススルー機能] (初期値：無効)

PPTP VPNのパススルー機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[端末IPアドレス]で設定した内容が有効となります。

[端末IPアドレス]

PPTPサーバのIPアドレスを入力します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
本商品が再起動され、設定が有効になります。

UPnP機能を設定します。

ルータ設定 > UPnP設定

UPnP設定

UPnPを利用する接続先を設定します。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[UPnP設定]

UPnP機能 無効 CP IGD

[UPnP IGD設定]

UPnP機能 (IGD) 利用接続先 PPP1

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。
 「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [UPnP設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ UPnP設定

[UPnP機能] (初期値：無効)

UPnP機能を使用するかどうかを指定します。

「無効」、「CP」、「IGD」のいずれかをクリックして選択します。

「IGD」を選択した場合には、次の [UPnP IGD設定] で設定した内容が有効となります。

■ UPnP IGD設定

[UPnP機能 (IGD) 利用接続先] (初期値：PPP1)

[UPnP機能] で「IGD」を選択したときの、接続先インタフェースを指定します。

・ PPP1 ～ PPP5

・ WAN

4 [設定保存] をクリックする。

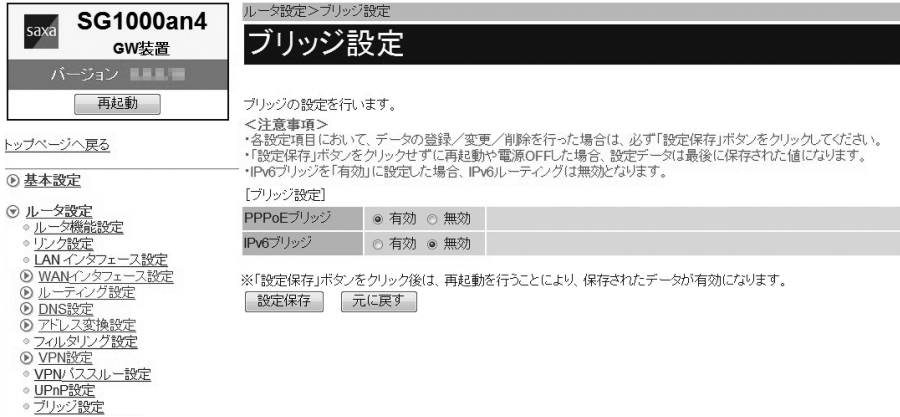
取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。
 本商品が再起動され、設定が有効になります。

ブリッジ機能を設定します。PPPoEブリッジ機能、IPv6ブリッジ機能が利用できます。



1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [ブリッジ設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ ブリッジ設定

[PPPoEブリッジ] (初期値：有効)

PPPoEブリッジ機能を使用するかどうかを指定します。

[IPv6ブリッジ] (初期値：無効)

IPv6ブリッジ機能を使用するかどうかを指定します。

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動され、設定が有効になります。

Wake on LAN設定

Wake on LAN機能を設定します。

ルータ設定>Wake on LAN設定

Wake on LAN設定

Wake on LAN機能に関する設定を行います。

<注意事項>
 ・各設定項目において、データの登録/変更/削除を行った場合は、必ず「設定保存」ボタンをクリックしてください。
 ・「設定保存」ボタンをクリックせずに再起動や電源OFFした場合、設定データは最後に保存された値になります。

[Wake on LAN設定]

Wake on LAN	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	
受信インタフェース	WAN	
受信ポート番号	7779	・1024～65535の間で入力してください。

※「設定保存」ボタンをクリック後は、再起動を行うことにより、保存されたデータが有効になります。

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2)の手順1～3を行います。

2 [ルータ設定] → [Wake on LAN設定] をクリックする。

3 各項目を設定する。

■ Wake on LAN設定

[Wake on LAN] (初期値：有効)

Wake on LAN機能を使用するかどうかを指定します。

「有効」を選択した場合には、次の[受信インタフェース]、[受信ポート番号]で設定した内容が有効となります。

[受信インタフェース] (初期値：WAN)

Magic Packetを受信するインタフェースを指定します。

- ・ PPP1 ～ PPP5
- ・ WAN

[受信ポート番号] (初期値：7779)

Magic Packetを受信するポートのポート番号を入力します。

設定範囲：1024 ～ 65535

4 [設定保存] をクリックする。

取り消す場合は、[元に戻す] をクリックしてください。

5 [再起動] をクリックする。

6 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

7 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動され、設定が有効になります。

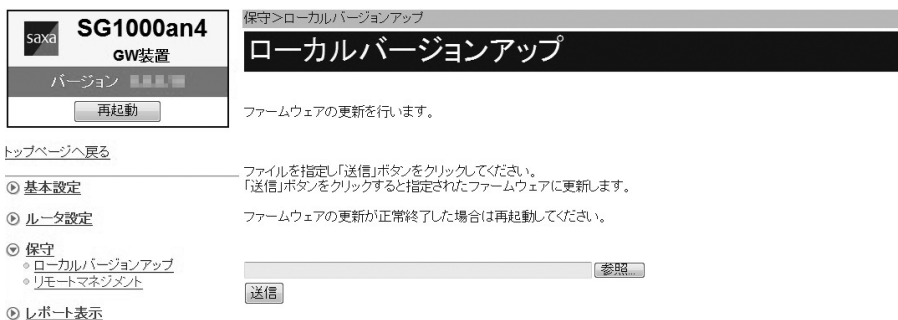
「保守」について

ファームウェア更新などの保守機能を実行します。

- ファームウェアを更新する (☛P4-2)
- リモートマネジメント (☛P4-4)
- 再起動する (☛P4-6)
- 省エネモードを解除する (☛P4-7)

ローカルでファームウェアを更新する

パソコン上にダウンロードしたファームウェアファイルを使用して、Webブラウザからファームウェアを更新することができます。



1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(➡P1-2) の手順1～3を行います。

2 [保守] → [ローカルバージョンアップ] をクリックする。

3 [参照] をクリックし、パソコン上のファームウェアファイルを指定する。

4 [送信] をクリックする。

5 「ファームウェアの更新を行いますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

6 「ファームウェアの更新が完了しました。※更新を有効にするには、再起動を行ってください。」と表示されたら [再起動] をクリックする。

7 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

8 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。 本商品が再起動します。



ワンポイント

- ファームウェアの更新チェックを中止するには手順5で [キャンセル] をクリックします。



お願い

- ファームウェア更新中および再起動が完了するまでの間は、本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。



お知らせ

- 手順2で [ローカルバージョンアップ] をクリックした際や手順4で [送信] をクリックした際または手順5で「ファームウェアの更新を行いますか?」と表示後の [OK] をクリックした際、「ファームウェアは既に更新されています。取得済みファームを適用するには再起動を行ってください。」と表示されることがあります。この場合は、[再起動] をクリックし、手順7へ進んでください。
- 通話中に再起動を行うと、通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動が完了するまでIP電話サービスとデータ通信（本商品を経由した下部の機器の通信も含む）はご利用になれません。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

リモートマネジメント

リモートマネジメントを行う際、サービスを開始/停止します。
リモートマネジメントを契約している場合、センターから遠隔で本商品の設定などを行うことができます。



お知らせ

- リモートマネジメントを利用するためには、本商品に設定を行う必要があります。設定は工事担当者が行いますので、ご契約サービスのサポート窓口までご連絡ください。
- リモートマネジメントを利用するためには、PPPoEの空きセッションが必要になります。
- リモートマネジメントサービスのご利用時は、工事担当者の指示に従ってください。

The screenshot shows the web interface for the SG1000an4 gateway device. The main heading is 'リモートマネジメント' (Remote Management). Below the heading, there is a section for 'リモート保守モードの開始/停止を行います。' (Start/stop of remote maintenance mode). Underneath, there is a table for 'リモート設定' (Remote Settings) with columns for 'PPPoE状態' (PPPoE Status) and '空き' (Free). The 'PPPoE状態' row shows 'リモート設定' and buttons for '開始' (Start) and '停止' (Stop). A note explains that clicking '開始' starts the mode and clicking '停止' stops it. On the left side, there is a navigation menu with options like '基本設定', 'ルータ設定', '保守' (Maintenance), and 'レポート表示'. The '保守' option is expanded to show 'ローカルバージョンアップ' and 'リモートマネジメント'.

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [保守] → [リモートマネジメント] をクリックする。

3 サービスを開始する場合は、「リモート設定」の [開始] をクリックする。

「リモート保守モードを開始します。よろしいですか?」と表示されます。

4 [OK] をクリックする。

「リモート保守モードを開始しました。」と表示され、リモートマネジメントサービスが開始されます。サービス開始後は、工事担当者の指示に従って操作してください。

リモートマネジメントサービスの開始に失敗した場合は、「リモート保守モードの開始に失敗しました。」と表示されます。

5 サービスを停止する場合は、「リモート設定」の [停止] をクリックする。

「リモート保守モードを停止します。よろしいですか?」と表示されます。

6 [OK] をクリックする。

「リモート保守モードを停止しました。」と表示され、リモートマネジメントサービスが停止されます。

 **お願い**

- リモートマネジメントサービスご利用時は、本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。

 **お知らせ**

- 「リモート保守モードを開始しました。」と表示された場合でも、PPPoEの空きセッションがない場合など、リモートマネジメント接続ができない場合があります。
- 「リモート保守モードの開始に失敗しました。」と表示された場合は、ご契約サービスのサポート窓口にお問い合わせください。
- 本商品に接続した電話機からの操作により、手動でサービスの開始/停止を行うこともできます。詳しくは、「取扱説明書」の「リモートマネジメントを利用する」を参照してください。

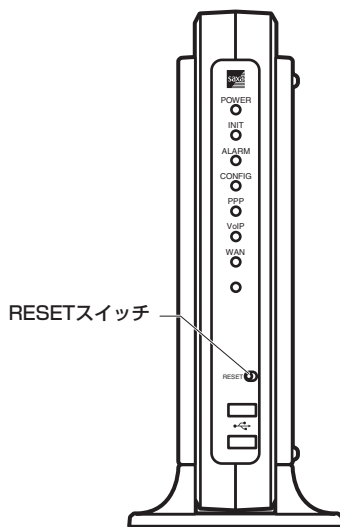
再起動する

再起動には、本商品のRESETスイッチを使う方法と、Webブラウザから行う方法があります。

RESETスイッチを使って再起動する

1 RESETスイッチを5秒以上押す。

本商品が再起動します。



Webブラウザから再起動する

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(●P1-2) の手順1～3を行います。

2 [再起動] をクリックする。

3 「現在の通信は全て切断されます。再起動を行います。よろしいですか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

4 「現在の通信が全て切断されます。再起動しますか？」と表示されたら [OK] をクリックする。

本商品が再起動します。再起動中は「再起動待機中 ○秒後にトップ画面へ戻ります。再起動後、トップ画面が正常に表示されることを確認してください。」と表示されます。(○は秒数) 設定のトップ画面が表示されるまでお待ちください。



ワンポイント

- 再起動を中止するには
手順4で [キャンセル] をクリックします。



お願い

- 再起動が完了するまで本商品の電源アダプタは絶対に抜かないでください。
- Webブラウザから再起動したときに、再起動後に「Internet Explorerではこのページは表示できません」などと表示されることがあります。この場合は、しばらく待ってからWebブラウザの [更新] をクリックしてください。



お知らせ

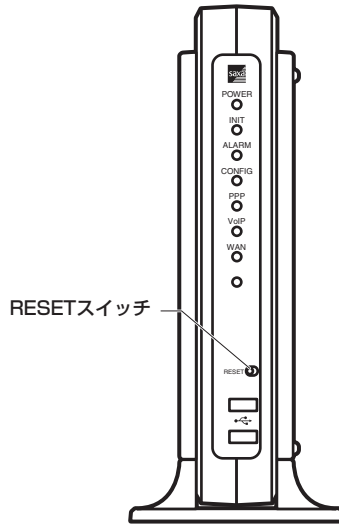
- 各種設定で [設定保存] をクリックする前に再起動をした場合、設定データは最後に保存された値になります。
- 通話中に再起動を行うと、通話が切断されます。
- 再起動が完了するまで数分かかります。再起動完了するまでIP電話サービスとデータ通信（本商品を経由した下部の機器の通信も含む）はご利用になれません。
- インターネット接続を行っている場合は、再起動の際にインターネット接続が切断されます。

省エネモードを解除する

省エネモードでは、POWERランプ以外のランプを消灯します。省エネモードのときは、POWERランプが点滅します。

省エネモードを解除してランプの状態を確認するときは、RESETスイッチを押します。

1 RESETスイッチを1秒程度押す。



【ランプ説明】

	POWERランプ	POWERランプ以外
省エネモード中	緑（点滅）	消灯
省エネモード解除	緑（点灯）	ランプの状態（☛取扱説明書P1-7）



お知らせ

- 省エネモードは工事担当者が設定します。
- 省エネモードについては、ご契約サービスのサポート窓口にお問い合わせください。
- RESETスイッチは5秒以上押さないでください。RESETスイッチを5秒以上押すと本商品が再起動します。（☛P4-6）

「レポート表示」メニューでは、以下の項目を表示できます。

■状態表示 (☛P5-2)

■ログ表示 (☛P5-4)

1
設定する

2
基本設定

3
ルータ設定

4
保守

5
レポート表示

本商品の現在の状態を示す情報を表示することができます。

(SG1000an4の例)

レポート表示 > 状態表示

状態表示

システムの各状態を表示します。

トップページへ戻る

- 基本設定
- ルータ設定
- 保守
- レポート表示
 - 状態表示
 - ログ表示

[バージョン]		
プログラムバージョン	00000000	本装置のプログラムバージョンです。
[動作状態]		
回線1	空き	
回線2	空き	
回線3	空き	
回線4	空き	
LAN1	リンクダウン	
LAN1スピード		
LAN2	リンクダウン	
LAN2スピード		
LAN3	リンクダウン	
LAN3スピード		
LAN4	リンクアップ	
LAN4スピード	1G FULL	
WAN	リンクダウン	
WANスピード		
UPnP CPグローバルアドレス		
SIPサーバアドレス		
[MACアドレス]		
LAN	00:00:00:00:00:00	
WAN	00:00:00:00:00:00	

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [状態表示] をクリックする。

下記の項目が表示されます。

■ バージョン

[プログラムバージョン]

本商品で現在運用されているファームウェアのバージョンが表示されます。

■ 動作状態

[回線1] ～ [回線4]

回線の状態が表示されます。

[LAN1] ～ [LAN4]

LANポートのリンク状態が表示されます。

[LAN1スピード] ～ [LAN4スピード]

LANポートのリンク設定状態が表示されます。

[WAN]

WANポートのリンク状態が表示されます。

[WANスピード]

WANポートのリンク設定状態が表示されます。

[UPnP CPグローバルアドレス]

UPnPの動作状態が表示されます。

[SIPサーバアドレス]

使用しているサーバのアドレスが表示されます。

■ MACアドレス

[LAN]

本商品のLAN側MACアドレスが表示されます。

[WAN]

本商品のWAN側MACアドレスが表示されます。

■ シリアルナンバー

[シリアルナンバー]

本商品のシリアルナンバーが表示されます。

■ LANインタフェース

[IPアドレス]

本商品のLAN側IPアドレスが表示されます。

[マスク長]

サブネットマスクのマスク長が表示されます。

■ WANインタフェース

WANインタフェースの状態が一覧で表示されます。

- ・ インタフェース名
設定したインタフェース名が表示されます。
- ・ 接続状態
接続状態が表示されます。
- ・ IPアドレス
インタフェースのWAN側IPアドレスが表示されます。
- ・ VoIP状態
VoIP機能の動作状態が表示されます。



お知らせ

- SG1000an8では、■動作状態は [回線1] ~ [回線8] の状態が表示されます。
- SG1000is8では、■動作状態は [回線1 Bch1]、[回線1 Bch2]、[回線2 Bch1]、[回線2 Bch2]、[回線3 Bch1]、[回線3 Bch2]、[回線4 Bch1]、[回線4 Bch2] の状態が表示されます。
- SG1000an4では、■動作状態は [回線1] ~ [回線4] の状態が表示されます。
- SG1000is4では、■動作状態は [回線1 Bch1]、[回線1 Bch2]、[回線2 Bch1]、[回線2 Bch2] の状態が表示されます。

以下のログを表示することができます。

- 通話ログ (☞P5-5)
- 障害ログ (☞P5-6)
- システムログ (☞P5-7)
- セキュリティログ (☞P5-8)

システムログ

本商品で発生したイベントに関するログを表示することができます。

レポート表示>ログ表示

ログ表示

[機能設定]

ログ種別 通話ログ 障害ログ システムログ セキュリティログ

ログデータ保存

再起動

トップページへ戻る

システムログを表示します。
<注意事項>
※ログは1000件まで保存され、1000件を超えた場合は古いログから上書きされます。

2013/10/22 14:06:03 Arcstar IP Voice SIPサーバ(WAN) 登録失敗 [応答なし]

2013/10/22 14:05:27 WEBブラウザログイン [user]

2013/10/22 14:05:23 DHCPv6クライアント 開始

2013/10/22 14:04:47 テレフォニ起動

2013/10/22 14:04:41 LAN2 リンクアップ: 1G FULL

2013/10/22 14:04:39 WAN 192.168.2.100/24 192.168.2.1

2013/10/22 14:04:39 LAN 192.168.1.1/24

2013/10/22 14:04:25 Analog 4ch

2013/10/22 14:04:25 ルータ起動

2013/10/21 15:57:41 再起動 (0/1,WEB)

2013/10/21 15:56:27 WEBブラウザログイン [admin]

2013/10/21 15:56:00 Arcstar IP Voice SIPサーバ(WAN) 登録失敗 [応答なし]

2013/10/21 15:55:23 DHCPv6クライアント 成功

2013/10/21 15:55:19 DHCPv6クライアント 開始

2013/10/21 15:55:05 WEBブラウザログイン [user]

2013/10/21 15:54:41 テレフォニ起動

2013/10/21 15:54:40 WAN リンクアップ: 1G FULL

2013/10/21 15:54:35 LAN3 リンクアップ: 1G FULL

2013/10/21 15:54:33 WAN 192.168.2.100/24 192.168.2.1

2013/10/21 15:54:33 LAN 192.168.1.1/24

2013/10/21 15:54:19 Analog 4ch

2013/10/21 15:54:19 ルータ起動

2013/10/21 15:42:42 再起動 (0/1,WEB)

2013/10/21 15:42:07 WEBブラウザログイン [admin]

2013/10/21 15:39:20 Arcstar IP Voice SIPサーバ(WAN) 登録失敗 [応答なし]

2013/10/21 15:33:48 Arcstar IP Voice SIPサーバ(WAN) 登録失敗 [応答なし]

2013/10/21 15:28:16 Arcstar IP Voice SIPサーバ(WAN) 登録失敗 [応答なし]

2013/10/21 15:24:42 リモートマネジメント接続失敗

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2)の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [ログ表示] をクリックする。

3 「ログ種別」の[システムログ] をクリックする。

システムログが表示されます。



ワンポイント

- システムログを保存するには
[ログデータ保存] をクリックします。保存したシステムログは電源を切っても保存されています。



お知らせ

- 保存していないシステムログは、電源を切ると消去されることがあります。
- 最大1000件までのログが表示されます。
1000件を超えると、古いものから順に上書きされます。

セキュリティログ

本商品が記録したセキュリティに関するログを表示することができます。

レポート表示 > ログ表示

ログ表示

[機能設定]

ログ種別 通話ログ 障害ログ システムログ セキュリティログ

ログデータ保存

トップページへ戻る

セキュリティログを表示します。
<注意事項>
※ログは100件まで保存され、100件を超えた場合は古いログから上書きされます。

2013/10/18 11:50:23 SPI UDP 192.168.2.255 137 192.168.2.1 137
2013/10/18 11:50:22 SPI UDP 192.168.2.255 137 192.168.2.1 137

- 基本設定
- ルータ設定
- 保守
- レポート表示
 - 状態表示
 - ログ表示

1 Webブラウザを起動して、設定のトップ画面を開く。

「設定画面にログインする」(P1-2) の手順1～3を行います。

2 [レポート表示] → [ログ表示] をクリックする。

3 「ログ種別」の [セキュリティログ] をクリックする。

セキュリティログが表示されます。



ワンポイント

- セキュリティログを保存するには
[ログデータ保存] をクリックします。保存したセキュリティログは電源を切っても保存されています。



お知らせ

- 保存していないセキュリティログは、電源を切ると消去されることがあります。
- 最大100件までのログが表示されます。
100件を超えると、古いものから順に上書きされます。

MEMO

